

ふりがな 氏 名	まつばやし よしと 松林 義人	職 名	講師
取得学位	博士(保健学)	学会での受賞歴	
主な担当科目	日常生活活動学、地域理学療法学、地域理学療法学演習		
所属学会	日本地域理学療法学会(理事:令和3年4月～)、日本理学療法科学学会、日本老年医学会、日本サルコペニア・フレイル学会、日本保健科学学会、浜松リハビリテーション研究会(理事:平成19年～)		

◆ 教育業績

事 項	実 施 年月(日)	概 要
アクティブ・ラーニングを導入して地域課題を具体化する授業の実施 (新潟リハビリテーション大学)	平成26年4月～令和2年3月	地域理学療法学の授業において、人口ビジョンを参考に地域課題を学生自ら提示できるようにアクティブ・ラーニングを導入した。平成30年と令和元年は、近隣の高校と連携した地域課題に対するグループディスカッションの実施と、学生が市長と地域課題について討論する機会を設定した。新型コロナウイルスの影響により令和2年は学内のみとなったが、学生が自ら地域課題を提示し、理学療法士としての役割を理解できるようにした。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
著 書	1. PT・OT ビジュアルテキスト地域 リハビリテーション学 第2版 <ISBN 978-4-7581-0238-4>	共	平成31年3月	株式会社羊土社	編集：重森健太・横井賀津志 共著者：井口茂、大杉紘徳、藪脇健司、高森聖人、小林貴代、山野薫、高畑進一、石井秀明、加茂智彦、大田尾浩、合田明生、岡本加奈子、福田久徳、宮崎宏興、岩永竜一郎、島崎寛将、山田実、牧迫飛雄馬、松林義人、川又寛徳、逢坂伸子、小野部純、福谷直人、山口良太、関本充史、松下太 全331ページ中、第7章第3節「転倒予防」(p. 242-253)を執筆
	2. CrossLink 理学療法テキスト地 域理学療法学 <ISBN 978-4-7583-2010-8>	共	平成31年3月	メジカルビュー社	編集：浅川康吉 共著者：浅川康吉、新田収、白井宏明、小林量作、山上徹也、中島英樹、川野和也、山田圭子、小森昌彦、正木光裕、久川裕美子、最相伸彦、寺中雅智、井上優、原田和宏、橋立博幸、金谷さとみ、河添竜志郎、阿部勉、矢嶋昌英、松林義人、信太奈美、齊藤道子、浦野幸子、南雲健吾、田中康之、丸谷康平、山口康成、

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
著書					木村朗、可児利明 全305ページ中、第3章「行動変容」(p.195-201)を執筆
学会発表	1. 地域高齢者の運動機能と認知機能の向上を目的とした取り組み(口頭発表)	共	平成30年11月	第27回新潟県理学療法学会誌(燕三条地場産業振興センター)	<u>松林義人</u> 、田中善信、山村千絵
	2. 村上市における地域リハビリテーション活動支援事業の報告 新潟県作業療法士会村上支部の活動報告(ポスター発表)	共	平成31年11月	新潟県作業療法学会誌16号(ハイブ長岡)	齋藤元浩、藤井知彦、 <u>松林義人</u>
	3. 本学における地域を学ぶ学習と地域実習に関する課題と今後の展望(シンポジウム)	単	令和4年12月	第9回日本地域理学療法学会誌(WEB)	<u>松林義人</u>
その他(報告書)	報告書 1. 地域高齢者の日常生活機能を向上させるプロジェクト研究成果報告書「身体機能と認知機能の向上」	共	平成30年5月	文部科学省、平成27年度～平成29年度私立大学戦略的研究基盤形成事業(事業番号S1513004)	<u>松林義人</u> 、栗生田博子、篠崎雅江、田中善信 p61-88
	実践報告等 1. 本学における介護予防への取り組み		令和元年12月	新潟リハビリテーション大学、新潟リハビリテーション大学紀要6巻1号	<u>松林義人</u> 、長島裕子 p73-75
	2. 診療参加型臨床実習の実施に向けた本学の課題について		令和3年2月	新潟リハビリテーション大学、新潟リハビリテーション大学紀要9巻1号	栗生田博子、 <u>松林義人</u> p99-104
	3. 新型コロナウイルス感染禍における本学臨床総合実習の取り組みについて		令和3年5月	新潟県理学療法士会、理学療法新潟24巻、	松林義人、北村拓也 p53-56